

大阪経済記者クラブ会員各位

実証事業推進チーム大阪が支援 新方式雨量計による雨量遠隔監視の活用検証実験を開始

【お問合せ】大阪商工会議所 産業部（門、瀧本、西田）

TEL：06-6944-6300

- 大阪府、大阪市、大阪商工会議所で構成する「**実証事業推進チーム大阪（以下、「推進チーム」）**」は、**TSTジャパン株式会社**（代表取締役＝古田 兼三、本社：大阪市中央区、以下「TSTジャパン」）が取り組む、**新方式雨量計による雨量遠隔監視の実証実験プロジェクト**を後押しする。
- 昨今、局地的に短時間で激しく降る豪雨（以下「ゲリラ豪雨」）により、交通機関の乱れや商業施設への浸水など、都市型水害が問題となる中、ゲリラ豪雨の予測はその重要性を増している。気象庁の地域気象観測システム（AMeDAS、以下「アメダス」）は、約17kmの間隔で設置され、その間の雨量データはシミュレーションに頼って計測するため、局地的に発生するゲリラ豪雨の予測が難しい現状がある。
- そこで、同実証実験ではTSTジャパンが開発中の安価かつ導入が容易な新方式雨量計を大阪府豊能郡能勢町にある「さとおか防災コミュニティセンター」を皮切りに、大阪府内の複数箇所を設置し、**ゲリラ豪雨即時遠隔モニター、アメダスの雨量データとの比較検証、雨量データの活用に向けた可能性検証、雨量計の自動異常検出プログラム開発**を行う。実証期間は8月28日から10月末まで。
- TSTジャパンは、今回の実証実験で雨量計の性能や雨量データの活用方法を確認できれば、気象庁の雨量計の型式認定を申請し、新方式雨量計の商品化をめざす。
- なお、推進チームは、大阪における実証実験をより円滑・効果的に実施できるよう支援しており、その一環で、大阪府・大阪市・民間企業の提供施設を実証フィールドに活用できる「実証事業支援」を行っている。

【実証実験の概要】

1. **実施期間**：2024年8月28日（水）から10月末頃を予定
2. **実施場所**：大阪府豊能郡能勢町「さとおか防災コミュニティセンター」
を皮切りに大阪府内の複数箇所で開催
3. **実施主体**：TSTジャパン株式会社
代表取締役 古田 兼三
本社：大阪市中央区南本町2-1-1

＜参考＞新方式雨量計の特長

今回の実証実験で使用する新方式雨量計は、受水器（パイプ）にたまった雨水の量を超音波センサーで計測し、雨量を計ることが可能。また、新方式雨量計は、従来の雨量計と比べて、電池のみで駆動するため電気工事不要、通信機能など必要な機能を持ち（オールインワン）、簡単に設置できる上、手間を掛けずに、遠隔監視がすぐにスタートできる点に優位性がある。



【新方式雨量計】